

授業概要

本講義では、教育法Ⅰにおける中学校社会科及び高等学校公民科に関する理論的・実践的な課題を踏まえて、それらの教科・科目を実践するための社会科教師としての資質を養うことを目的として講義する。具体的には、前半部では社会科・公民教育をめぐる教材研究、授業づくりの諸問題について検討し、それらを踏まえて自らの社会科・公民教育の授業観をもとに学習指導案を作成していく。後半部では、実際に各単元において授業の実践と協議会を実施していく。以上を通して、自己の社会科授業観を理論的・実践的に再構成し、また、他者との議論を手がかりに自身の授業を修正・改善し、よりよい社会科授業実践を目指していく。

授業計画

第 1 回	民主主義社会と公民教育——現代社会を象徴するキーワードと市民育成（ふりかえり①）
第 2 回	生徒の身近な話題と教材研究・学習活動づくり——政治・経済学習ウォームアップ
第 3 回	地域・社会問題学習①「合意形成」「社会参画」に向けた社会科授業の課題
第 4 回	地域・社会問題学習②少子高齢・人口減少社会における「まちづくり」
第 5 回	学習指導要領と授業づくり・学習評価①学習指導案の作成と社会的な見方・考え方
第 6 回	学習指導要領と授業づくり・学習評価②問いと目標・学習活動・評価の関係性
第 7 回	社会科教科書分析・授業づくり①憲法・政治単元
第 8 回	模擬授業と協議会①授業のストーリー展開と導入づくり
第 9 回	社会科教科書分析・授業づくり②消費・労働・金融・財政・経済単元
第 10 回	模擬授業と協議会②社会の仕組みと図示・解説
第 11 回	社会科教科書分析・授業づくり③法・国際単元
第 12 回	模擬授業と協議会③議論学習の方法と留意点
第 13 回	社会科教科書分析・授業づくり④地域問題・社会問題単元
第 14 回	模擬授業と協議会④統計データと ICT 機器の活用
第 15 回	社会科授業観の再構成と社会科教師の専門性（ふりかえり②）
第 16 回	筆記試験

到達目標

- ・公民教育に関する理論と実践の検討を踏まえて、自らの授業観を学習指導案に表現することができる。
- ・中学校社会科及び高等学校公民科の趣旨を踏まえて、社会科授業を実践・検討することができる。

履修上の注意

本講義は、中学校社会科及び高等学校公民科に関する教育法Ⅱの講義です。社会科・公民科教育法Ⅰを受けていることが前提となります。なお、学外施設で調査をすることも考慮しておいてください。

予習・復習

基本的には、教材研究や学習指導案の作成など授業の時間以外でもその精度を高めていってください。また、講義の中で紹介する関連文献や論文を読み進めるなど、教育実習に向けて社会科教師としての見識を深めていってください。

評価方法

- ・筆記試験：40%
- ・学習指導案：30%
- ・模擬授業・協議会における活動とふりかえりシート：30%

テキスト

テキスト：文部科学省（2018）『中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 社会編』東洋館出版社。
文部科学省（2019）『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 公民編』東京書籍。

参考文献：荒井正剛（2022）『中等教育社会科教師の専門性育成』学文社。
橋本康弘（2018）『高校社会「公共」の授業を創る』明治図書。
渡部竜也（2024）『教室で論争問題を立憲主義的に議論しよう——ハーバード法理学アプローチ』東信堂。
ベス・C・ルービン（2024）『メイキング・シティズン——多様性を志向した市民的学习への変革』明石書店。
ジェームズ・P・シェーバー他（2019）『ハーバード法理学アプローチ——高校生に論争問題を教える』東信堂。
メイラ・ロビンソン（2022）『エンパワーメント・ギャップ——主権者になる資格のない子などいない』春風社。
社会認識教育学会（2020）『中学校社会科教育・高等学校公民科教育』学術図書出版社。